

プロジェクトゼミナールにおける地域課題への取り組み

～オールドニュータウンの活性化にゼミ学生が果たす役割～

国際商経学部

○准教授 和田 真理子

キーワード

ニュータウン、高齢化、大学と地域の連携、ソーシャルキャピタル、祭り、NPO、自治会、商店街



研究概要

明石舞子団地（明舞団地）は、1964年のまちびらきから60年近く経過し、高齢化と人口減少が進むオールドニュータウンです。国際商経学部のプロジェクトゼミナールでは、2021年から「地域課題の解決」カテゴリーの教員グループが団地活性化に取り組んでいます。活性化の一つのキーワードは、「ソーシャルキャピタル」を増やすということです。ソーシャルキャピタルとは、社会の豊かさや幸福度に関わる、住んでいる人の考え方や人間関係のあり方など社会のありようのことで、人口減少社会において豊かさを実感する重要な要素です。学生の力で人口を増やすことは難しいですが、人や団体同士のつながりを増やすことはできます。まちづくりでは、「よそ者・若者・バカ者」が必要だとよく言われますが、学生はほどよい距離感で地域の人や団体をつなぐポテンシャルを持っています。本年前期には、4ゼミの11班がそれぞれの連携相手（自治会、NPO、商店街など）とともに活動してきました。自治会と連携する班は、LINEや動画の活用で活動を刷新する手がかりを発見し、祭りの再生に取り組む班は、自らが楽しみながら（図1）有志の個人や様々な団体が協力するプラットフォームの一員となり、新しい祭りのあり方を見出しつつあります（図2）。



図1 学生が提案した BON-DANCE

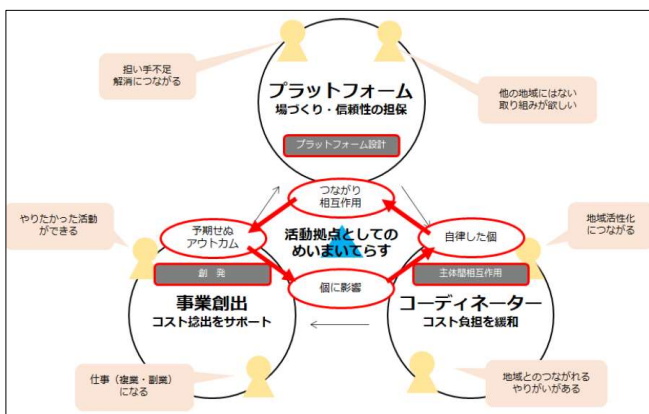


図2 祭り再生のプラットフォーム

アピールポイント

学生は祭りの再生、停滞しがちな自治会活動の刷新など、地域とのほど良い距離感を活かした活動で地域に貢献しています。ソーシャルキャピタルの醸成には、特定の人との強いつながりよりも、様々な人や団体との弱いつながりがたくさんあることが重要と言われており、この意味で学生は地域活動にフィットした存在と言えます。学生自身にとっても、1、2回生のうちに、自分の行動で世の中がある程度動くという感覚を得ることは貴重な経験です。学部カリキュラムの裏付けがあることにより、継続的に地域との関係性を作ることができ、毎年異なる学生が関わることができるプロジェクトゼミナールは、地域と学生の win-win のプログラムです。